

令和元年度百合便り

## 校長だより 7月号



無事に夏季休業を迎えることができました。今年の夏期講習の受講希望者は300人を超えました。ここ数年来にない数字だと思います。

そして7月6日に開催されたやまゆり観賞会は、曇り空にもかかわらず、70人の見学者が来てくださいました。本当に地域に根付いたのだと思います。そして今年は、開花数も開花時期も長く、生徒・職員もしっかりやまゆりを堪能することができました。PTA役員や環境委員をはじめとし、育成から運営に携わってくださった方々にお礼申し上げます。

さて、夏季休業を迎えるにあたり、終業式では4人の職員が話をしました。その話はリレーのようにつながり、話の間生徒の集中力が途切れることはありませんでした。内容は以下の通りです。

校長

①「言葉に触れ、共感するフレーズを探し、自分の価値観を掘り起こせ」

眠っている自分の価値観を誰かが代弁しているなら、その言葉を自分のものにして、自分を作り上げればいい。

②「永遠のゼロ」を読んでみよう。

「生きること」「大切な人に生きてほしい」と思うこと、ともに生きたい願いは今の時代でも変わらない。どうしたら「ともに生きる」ことになるのか考えてほしい。「ともに生きる」はかながわ憲章でもある。

生活支援

「ともに生きるため」にしなくてはいけないこと考えてほしい。周りの人も心地よく過ごせるために何をするのか。自転車、バス乗車マナー、遅刻の例を出しました

学習支援

テストの振り返りから、勉強方法を考えてみる。自分だけで考えるのは難しい。卒業生の合格体験記を読んで、真似してみよう。成功した人の答えには真似する価値がある。案外近道かもしれない。

進路支援

入試が変わる。自分が行動したことすべてが、入試の選考資料になる。何をしたのか、なぜそうしたのか、自分はどう考えたのか、自分の言葉でまとめなければいけない。

言葉から始まったこの発信は、人の言葉を借りてみる→人を意識すること→人を受け入れること→ともに生きることの大切さ→人という事で自分を客観的に見れること→自分のことが自分の言葉になる。とつないでいるような気がしました。

そして、進路支援からの話は夏休みの過ごし方として、とても具体的だったと思います。入試制度が変わる今、特に2年生には時間はないという話をしました。このことについては、ご家庭でも聞いてもらえたらと思います。

最後に司会が、聞く姿勢が少し悪くなった時に「頭を垂れていいのは稲穂だけ」と注意し、式最後に「実るほど頭の下がる稲穂かな」を調べましょう。言葉を覚えましょう。と話してくれました。見事なしめくりだったと思います。